



はらだ 原田てつよ議員

ヒアリングフレイル予防対策の現状を問う

〔質〕 社会参加やコミュニケーションの機会が減少する要因の一つとして、ヒアリングフレイル（聴覚機能の衰え）が新しいフレイルの概念として取り上げられている。早期に発見し、進行を遅らせたり、治療に結び付けたりするなど様々な事業を進める自治体が増えている。本市の取組や考えを尋ねる。

〔答〕 現在は行っていないが、関係機関の協力を仰ぎながら、対策を検討していきたい。

〔質〕 本人だけでなく、周囲にも関心を持っていただくため、補聴器、集音器等の紹介も含めて、研修会や講演会を行ってはどうか。

〔答〕 まず知っていただくところから進めていきたい。



介護業界における労働環境の改善の支援について問う

〔質〕 介護業界の人材不足は深刻な状態にある。ゲンキプラン21-VIIIにロボット技術・ICT活用促進の掲載があり、「導入に向けた補助金等の情報収集と周知に努める」とある。本市の現状を尋ねる。

〔質〕 機器を使うことで、スタッフの身体への負担軽減、利用者の安心感につながると聞く。機器にも様々なタイプがあり、高額となるため、機器を体験する場の設定や補助金等の情報提供が必要との声を聞くが、本市の考えを尋ねる。

〔答〕 行政からの情報提供が行き届いていないと感じる。体験の場もできれば良いと思っている。



さいとうかずのぶ 齋藤一信議員

なぜ、推定1億円の税金を法的理由なく帳消しにしようとしたのか

〔質〕 滞納金を支払う意思があった債権者に対して、市自ら債権を放棄する方向で動く。それはかなり疑問に思う点である。市民の皆さんに対し、明確に示してほしい。

〔答〕 抽象的な回答しかできない。いくら尋ねられても回答することは難しい。

〔質〕 折衝記録はとどめておくようにと債権管理マニュアルに書かれているにも関わらず、4名の債権者に対し、約1億円もの債権を帳消しにすると電話で伝えた、最も重要な記録が債権台帳に記載されていないことについてどのように考えているのか。

〔答〕 非常に遺憾であると考えている。今後は担当者同士で、二重・



三重チェックを行い、記載漏れがないようにしていきたい。

〔質〕 推定1億円とも言われる滞納金を市長の方針の下、帳消しにしようとしたわけだが、議決事項でなくとも議会に説明し、処理を進めるべきだったと思う。今回の調査において、多くの弁護士、税理士、国税庁関係者に知見をいただいた。皆、口をそろえて、本市の処理の不公平性に疑問を持っていた。また、一地方自治体の首長の裁量で帳消しにできるのか、その基準を訴訟によって明らかにしてほしいといった意見もあった。これからの本市には、法廷でしか白黒つかないような、一か八かの市政運営はやめていただきたい。確実に問題のない、誰からも疑問に思われない市政運営を切に願う。

